

# APP 環境新聞

発行日 2020年11月20日

発行者 エイピーピー・ジャパン株式会社



APP は持続可能な開発目標 (SDGs)を支援しています。



## エコプロ Online2020 に出展!



11月25日(水)~28日(土)

10:00~17:00

<https://eco-pro.com/2020/>

(参加無料、登録制)

エイピーピー・ジャパン株式会社 (APP ジャパン) は、エコプロ Online2020 に出展します。APP が森林保護方針を発表した 2013 年から、APP ジャパンはエコプロに出展を続けてきました。今年は、新型コロナウイルスの影響で初めての Online 開催となりましたが、当社の SDGs に向けた取り組みや商品を紹介する貴重な機会として出展することにしました。ぜひ APP ジャパン/ユニバーサル・ペーパーのブースサイトまでお越しください。

なお、エコプロブース内でご覧いただけるライブ配信を予定しています。

### <ライブ配信スケジュール>各日ともに 11:00 から配信

日	テーマ
11/25(水)	APP の PEFC 森林認証製品と SDGs 達成に向けた取り組み (約 25 分)
11/26(木)	DMPA (森林火災防止のための地域活性化) プログラム (約 20 分)
11/27(金)	日本のステークホルダーとのつながりと森の再生プロジェクト ~いっしょに SDGs に取り組もう!~ (約 15 分)
11/28(土)	上記 3 本の録画を連続配信

\*11:00 からのライブ配信後も、その日の終了まではアーカイブ配信にてご覧いただけます。

### 「森の再生プロジェクト~いっしょに SDGs に取り組もう!~」始動 ~~APP ジャパンの寄付によって初の植樹が行われる~~

前号でお伝えした、ベランタラ基金に対する 2 回目の寄付により初の植樹が行われました。

今後も半年ごとに継続的な寄付を行う前提で、スマトラ島リアウ州にあるギアム・シアク・ケチル=ブキット・バツ生物圏保護区内にある荒れた森林の再生プログラムを新たに立ち上げました。その名も「森の再生プロジェクト~いっしょにSDGsに取り組もう!~」。

プロジェクト対象地域は、かつてトラヤゾウも生息するうっそうとした森でしたが、違法伐採や森林火災などさまざまな理由で荒れてしまい、現在は木が 2-3 割しか残っていない荒廃林です。

そこに、ベランタラ基金のスタッフ、APP グループの植林会社のスタッフ、テミアン村の住民によって、10月6-7日にかけて試験的に50本の植樹を行いました。植えた樹種は、ラミンやメランチと言った自生種。絶滅危惧種であるラミンは、そもそも絶滅寸前であるため、苗に育てるための種の入手が難しいという問題があります。

その時の様子を、こちらからご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=wU0Be5nVzZE&t=11s>



### CENに発起人として参画

APP ジャパンは、山本良一 東京大学名誉教授と更家悠介 サラヤ株式会社代表取締役社長と一緒に設立した「気候非常事態宣言とカーボンニュートラル社会づくり支援ネットワーク(略称:気候非常事態ネットワーク/CEN)」に発起人として参画しました。

世界はまだ新型コロナウイルスによる危機に直面していますが、それ以前から気候危機にも直面しています。2018年には気候非常事態を宣言する自治体が世界各地で現れてきています。日本でも 41 の自治体が気候非常事態を宣言し、菅首相も 2050 年カーボンニュートラル宣言をしました。これに呼応する企業や大学などを支援する目的で CEN は設立されました。

APP ジャパンが行っている植樹などの取り組みについても、製紙メーカーとして貢献できることは何か、改めて考えていきたいと思っています。



山本良一 東京大学名誉教授

## 第2回「SDGs グローバル エンゲージメントカンファレンス」で高校生と対話

10月31日、「第9回高校生国際ESDシンポジウム」  
「The 2nd SDGs Global Engagement Conference」が  
オンライン開催され、「エシカル消費とSDGs」の分科会にお  
いて、約20名の参加者に対してAPPジャパンからプログラ  
ム提供を行いました。

大会のメインテーマは——The great transformation  
for 2030. 始めなければ、変わらない——。

国境を越え、若い力がみなぎる議論の場に、参加社員も大  
いに刺激を受けました。分科会では、当社からPEFC認証に  
ついて、さらにインドネシアにおける取り組みや森林再生のた  
めのグローバルアクションについてご紹介し、終了後、参加者  
より次のようなコメントが寄せられました。

「質問です。森林火災防止のための地域活性化(DMPA)  
プログラムでは、現地の人の言語、文化や風習などの課題が  
あったと思います。どのように、対応しましたか?」「DMPAに  
ついて、現地の方へ焼畑ではなくより良い方法で生産を行っ  
ていく取り組みでは、現地の方もこだわりがあり両方が正しい  
と思って話を進めていく中で説得することは大変で難しいこと  
だと感じた」「認証マークの商品を買うということは、その問題

について調べるきっかけになったり、自然環境にいい影響を与  
えることができるだけでなく、消費者として遠くの地域を身近  
に感じ、貢献できる一番簡単な方法だなと思いました」

このような高校生との対話から、私たちがインドネシアの森  
林再生への共感や協働に励む思いを新たにしました。



高校生にPEFC認証とAPPの取り組みについて説明しました

### 新商品紹介

APPグループであるユニバーサル・ペーパー株式会社  
は、ワーナー・ブラザーズの人気キャラクターであるトワイ  
ティーをデザインした冬限定商品を2020年9月28日  
から数量限定で発売開始しました。

化粧箱の代わりにフィルムを使用したソフトパックは、そ  
れまでボックスティッシュが主流だった日本に、バッグの中  
や、車内やアウトドアなどお出かけ時の使用といった新しい  
用途をユニバーサル・ペーパーが提案して、この5年間で急成長している商品です。

本製品は、植林木パルプを100%使用したPEFC認証  
品です。社内でも、その利便性を実感して多くの社員やそ  
の家族がリピートしています。

#### 「ハロー トワイティー ソフトパックティッシュ 冬限定デザイン」(ユニバーサル・ペーパー)



### 森林再生の「御縁(ごえん)ガエル」誕生!

APPは、SDGsを提唱する国連のグローバルコンパクトの  
メンバーでもあります。私たちAPPジャパンにおいても、  
2019年より「SDGsタスクフォースチーム」が中心となり、  
社内一体となったアクションを目指しています。しかし、社内  
の一人ひとりのSDGsへの意識や行動は、すぐには目に見  
えません。

そこで、組織診断ができる「JEI SDGs Survey」を、今年  
も社内で展開。昨年からの取り組みを続けている社員全体で  
は、今年、SDGs達成への指標すべてがゆるやかに向上しま  
した。しかし、今年初めて参画した社員の解答は、多くの指  
標に内向きで、認証商品や寄付行動などへの関わりが低い  
評価となりました。

この結果により、社内に「御縁(ごえん)ガエル」が誕生し  
ました。インドネシアにおいて1本の苗木は約5円で購入でき  
ます。私たち社員も植樹の寄付に貢献できるよう、カエルの  
貯金箱を社内に設置しました。  
できることをできることから。  
5円玉は「御縁」にも通じ、カエルは「よみがえる」のシンボル  
です。



大切なインドネシアの森の再  
生に向けて、社員一丸となって  
寄付の取り組みを続けます。



#### インドネシアの熱帯林保護のため、ご協力をお願いします/バランタラ基金への寄付・協力の方法

1. APPジャパンのコピー用紙を購入する→売上の一部がスマトラ島の森林再生事業に寄付されます
2. 個人・法人等で寄付をお考えの方→APPジャパンにご連絡ください(sustainability@appj.co.jp)